

「児童館のあり方」に基づく
モデル事業実施報告および取組事例集
(令和 6 年度)

函館市

【モデル事業】

- 開館時間延長事業 . . . 1
 - ・ 西部児童館, 亀田児童館…… 1 時間延長
 - ・ 赤川児童館, 鍛冶児童館…… 2 時間延長

【取組事例】

- 1 行事への中学生のボランティア参加 (西部児童館) . . . 2
- 2 子どもの意見を取り入れた児童館まつりの企画・運営 (谷地頭児童館) . . . 3
- 3 女性センターまつりでの児童館ブースの設置 (東川児童館) . . . 4
- 4 町会と連携した多世代交流型行事 (新春かるた大会) の開催 (中島児童館) . . . 5
- 5 乳幼児向け企画の実施 (大森浜児童館) . . . 6
- 6 児童センター主催事業における民間団体等との連携 (児童センター) . . . 7
- 7 児童館まつりへの中学生・高校生・大学生のボランティアスタッフの協力 (赤川児童館) . . . 8
- 8 赤川児童館母親クラブ主催「健康教室」の開催 (赤川児童館) . . . 9
- 9 函館市子ども会議の児童館での開催 (鍛冶児童館) . . . 10
- 10 児童館まつりの企画・運営への子どもの参加 (山の手児童館) . . . 11
- 11 乳幼児向け企画の実施 (山の手児童館) . . . 12
- 12 体験学習等の場の提供およびインターンシップ生の受け入れ (山の手児童館) . . . 13
- 13 町会などと連携した行事の開催 (桔梗児童館) . . . 14
- 14 町会と連携した行事の開催 (日吉が丘児童館) . . . 15
- 15 開館時間の 1 時間延長 (神山児童館) . . . 16
- 16 海上保安庁函館航空基地と連携した企画の実施 (神山児童館) . . . 17
- 17 三世代交流ゲーム会の開催 (神山児童館) . . . 18
- 18 関係機関等との情報共有体制の構築 (深堀児童館) . . . 19
- 19 中学生の利用促進に向けた取組 (湯浜児童館) . . . 20
- 20 中学生や地域の方々と連携した行事の開催 (湯川児童館) . . . 21
- 21 行事の企画・運営への子どもの参加 (旭岡児童館) . . . 22
- 22 「どっちにする? 箱」の設置 (宮前児童館) . . . 23
- 23 大学生との連携によるプログラミング教室の開催 (宮前児童館) . . . 24
- 24 英語に触れる企画の実施 (大川児童館) . . . 25
- 25 町会と連携した行事の開催 (五稜児童館) . . . 26
- 26 乳幼児と中学生および高校生世代等との触れ合い体験 (富岡児童館) . . . 27
- 27 開館時間の延長 (高校生タイムの実施) (昭和児童館) . . . 28
- 28 長期休業期間中の卓球教室開催 (古川母と子の家) . . . 29

モデル事業

1 開館時間延長事業

		分類	新規
実施児童館	西部児童館，亀田港児童館，赤川児童館，鍛冶児童館		
あり方の分類	(イ) 中学生および高校生世代の目線に立った居場所づくり		
実施時期	9月～11月	参加人数	のべ216人
■背景/具体的な内容など 児童館は，18歳未満すべての子どもが自由に利用することができる施設であるが，中高生の生活実態を踏まえると現在の開館時間や児童館のルール等では利用しにくい状況にある。 中高生が利用しやすくなる環境にし，すべての子どもの居場所とするべく，西部児童館，亀田港児童館，赤川児童館，鍛冶児童館の4館で試験的に開館時間延長の取組を行う。 【実施日および実施期間】 9月～11月の期間，各児童館，毎週金曜日に実施 【延長時間】 1時間延長：西部児童館，亀田港児童館 (9月：19時まで，10・11月：18時まで) 2時間延長：赤川児童館，鍛冶児童館 (9月：20時まで※1，10・11月：19時まで※2) ※1：中学生は19時まで ※2：中学生は18時まで 【利用者数】 216人 ・西部児童館：中学生8人，高校生0人 ・亀田港児童館：中学生43人，高校生0人 ・赤川児童館：中学生66人，高校生12人 ・鍛冶児童館：中学生74人，高校生11人			

取組事例集

1 行事への中学生のボランティア参加

		分類	新規
実施児童館	西部児童館		
あり方の分類	(キ) 世代や団体の垣根を超えた積極的な児童館の活動参加の促進		
実施時期	7 月/12月	参加人数	のべ15人
■背景/具体的な内容など 児童館は、18歳未満すべての子どもが自由に利用することができる施設であるが、実態としては小学生が主な利用者となっている。そのため、児童館は中学生でも気軽に利用できる施設であることを紹介し、利用を促進するため、中学校と連携を図り、中学生が行事にボランティアスタッフとして協力してもらう取組を実施した。どちらの行事でも中学生は楽しそうに小学生と接しており、また、中学生自身も児童館の行事を楽しんでいた。地域の方や同伴の保護者からも感謝の言葉をいただいて、参加した中学生は自分も役立つという「自己有用感」の向上につながった。 [児童館まつり] ・日 時：7月20日（土）10時～13時 ・参加者：青柳中学校生徒 8 人 ・主な内容：主に「お菓子の首飾りづくり」コーナーを担当し、小学生（主に低学年児童）の首飾りづくりのお手伝いをした。丁寧な指導で教えてもらった小学生も楽しんで取り組んでいた。 [クリスマス会ピザパンづくり] ・日 時：12月 7 日（土）11時～13時 ・参加者：青柳中学校生徒 7 人 ・主な内容：1 グループ（小学生 5 人程度（幼児含む））に 1～2 人の中学生を配置し、パン生地伸ばし方や具材のトッピングの指導、焼きあがったピザパンの運搬等のお手伝いを行った。			

2 子どもの意見を取り入れた児童館まつりの企画・運営

		分類	新規
実施児童館	谷地頭児童館		
あり方の分類	(ウ) 子どもの意見の尊重		
実施時期	6月～9月	参加人数	21人
■背景/具体的な内容など これまでやちっこまつり（谷地頭児童館まつり）は、母親などの地域住民が参加する自主的な団体である母親クラブと職員が中心となり運営してきたが、子どもが運営にも自主的に関わることでより楽しめるものになると考え、「やちっこまつりプロジェクトチーム」を立ち上げ、企画や運営に子どもの意見を取り入れるよう取り組んだ。子どもたちに、まつりの内容やアイデアに関するアンケートを実施し、併せてプロジェクトチームのメンバーを募集した。チームのメンバーでアンケートを集計し、それを基にまつりの内容を職員と話し合って決めたほか、当日もスタッフとして運営に参加した。 [やちっこまつりプロジェクトチームの参加人数] ・小学校低学年：5人 ・小学校高学年：15人 ・中学生：1人 [子どもが担当したもの] ① ポスター作り：子どもたちのアイデアで自由に作って良いこととし、できたポスターは町会・学校などに掲示してもらった。 ② おばけやしきづくり：夏休みの期間を利用して図書室にお化け屋敷を作った。昨年度も経験があったので協力して少しずつ作ることができた。 ③ 各コーナーの看板作り：子どもたちの手で色を塗り作成した。 ④ まつり当日：中学生ボランティアにはいくつかのコーナーを担当してもらい、母親クラブや地域の人との交流を行った。小学生はゲームコーナーの手伝いを受け持った。			

3 女性センターまつりでの児童館ブースの設置

		分類	新規
実施児童館	東川児童館		
あり方の分類	(キ) 世代や団体の垣根を超えた積極的な児童館の活動参加の促進		
実施時期	10月27日	参加人数	20人
■背景/具体的な内容など 当館は、1階が児童館、2階および3階に女性センターが入居する複合施設になっている。これまでも女性センターとの交流はあったが、更なる交流の促進のほか、女性センターまつりに参加する幼児や保護者、児童に対して東川児童館の存在をより知ってもらい、普段の利用につなげることを目的に、女性センターまつりに初めて児童館のブースを設けた。当日は、日程が近かったハロウィンに関係するものとし、具体的には以下の内容とした。 開催にあたり実行委員会に複数回参加したことにより、女性センターとのつながりが強まった。また、幼児と親子で参加した家庭は、工作を通して楽しみながら触れ合っていたほか、今回の取組をきっかけに、他の児童館行事への参加につながった。 [具体的な内容] ① 紙コップにハロウィンのキャラクター（オバケやカボチャなど）の飾り付け（工作） ② その紙コップにマジックハンドのつかみ取りゲームで取ったアメなどのお菓子をを入れる [参加人数] ・ 幼児：8人 ・ 小学校低学年：11人 ・ 小学校高学年：1人			

4 町会と連携した多世代交流型行事（新春かるた大会）の開催

		分類	継続
実施児童館	中島児童館		
あり方の分類	(カ) 民間団体等との連携による児童館の活用促進		
実施時期	1月10日	参加人数	43人
■背景/具体的な内容など 人口減少が進むなかにおいて、子どもの居場所としてより良い児童館運営を行うためには、児童館職員のみならず、地域に住む方々と連携することが大切である。そのため、世代を超えて各家庭で楽しんでいた正月の娯楽である「かるた大会」を町会と連携して開催することにより、町会の方に児童館の取組を認知してもらうとともに、世代間交流の場とするほか、子どもたちが地域への愛着や連帯感、豊かな情操などを身につける機会とした。 大会開催にあたり、児童館と町会青少年健全育成部で役割分担のうえ準備を行い、当日は、いろはカルタと百人一首を実施するのにふさわしい畳の部屋を有している中島町会館を会場に開催した。 [参加人数] ・小学校低学年：21人 ・小学校高学年：10人 ・保護者/一般：12人 [町会と児童館の役割分担] ・町会：会場準備、参加者募集、ボランティアスタッフの確保など ・児童館：ポスター作成、参加者募集、対戦表等の作成、子どもの誘導など			

5 乳幼児向け企画の実施

		分類	拡充
実施児童館	大森浜児童館		
あり方の分類	(オ) 地域の子育て支援の場としての乳幼児および保護者等の居場所づくり		
実施時期	10月～	参加人数	のべ65人
■背景/具体的な内容など			
児童館は、0歳の乳児から18歳まで自由に利用することができる施設である。当館は幼児室が確保され、玩具なども充実していることから、年間を通して、子育て支援事業である「幼児の広場」を開催している。これまでは、午前の時間を利用し、子育てアドバイザー（はまっこひろば 第3火曜日）と児童館職員（もりもりきっず 第1金曜日）が毎月1回ずつ行ってきたが、10月からは、より一層の乳幼児および保護者の居場所づくりをめざし、もりもりきっずを不定期で開催日を増やし、以下のとおり開催した。企画終了後も遊戯室や幼児室でお友だちや職員と交流しながら自由遊びを楽しんでいた。			
[「幼児の広場」 月別実施内容]			
	はまっこひろば (子育てアドバイザーによる事業)	もりもりきっず (児童館職員による事業)	
10月	ハロウィン魔女の帽子作り	・ アスレチックあそび ・ ハロウィン仮装をしよう・写真立て作り	
11月	マラカス作り・マラカスで歌おう	・ アスレチックあそび ・ もちもちパン作り	
12月	ミニクリスマス会	・ クリスマス工作 ・ 福笑い	
1月	節分お面作り	・ 節分イベント※冬休み期間があり1回	
2月	おひなさま作り	・ シロフォン作り ・ ひなまつり(おひなさまになろう)	
※それぞれメイン設定のほかに、手遊び、読み聞かせ、リズム体操など組み込んでいる			
[参加人数] ※のべ人数			
・ 乳幼児：33人 ・ 保護者：32人			

6 児童センター主催事業（イベント）における民間団体等との連携

		分類	新規
実施児童館	児童センター		
あり方の分類	（カ）民間団体等との連携による児童館の活用促進		
実施時期	通年	参加人数	のべ13団体154人
■背景/具体的な内容など 近年の児童センターの利用者の動向を分析すると、「小学生」および「幼児」の団体利用が増加の傾向を示している。これは、放課後や休日の居場所（遊び場）が多様化したことにより、児童館の個人利用が減少したためと考えられる（居場所（遊び場）の「選択肢が増加」したためと肯定的に捉えることができる）。そのため、児童センターが主催する事業（イベント）で積極的に民間団体等と連携し、児童センターの新たな利用促進につながる取組を実施した。 〔団体利用の状況〕 「小学生」…放課後児童クラブや放課後等デイサービス、福祉施設等 ※特に放課後等デイサービスは、函館市に加えて北斗市や七飯町からの団体利用が増加 「幼児」……函館市内の認定こども園や保育園、幼稚園等のほか「子育てサロン」等の団体利用もあり 〔事業内容（一例）〕 ・スポーツ教室「スポーツレクリエーションを楽しもう！」 放課後等デイサービス利用者、福祉施設利用者、一般参加者の計23人がスポーツレクリエーションを体験 ・スポーツ教室「モルック」 放課後等デイサービス利用者17人がモルックを体験 ・三世代交流事業「ふれあいお楽しみ会」 福祉施設利用者、老人福祉センター利用者、一般参加者の計21人が様々なゲームで交流 ・子育て支援事業「キッズランド」 保育園子育てサロン利用者の14人が交流			

7 児童館まつりへの中学生・高校生・大学生のボランティアスタッフの協力

		分類	新規
実施児童館	赤川児童館		
あり方の分類	(キ) 世代や団体の垣根を超えた積極的な児童館の活動参加の促進		
実施時期	9月14日	参加人数	約40人
■背景/具体的な内容など 令和6年度に20周年を迎えた当館の「児童館まつり」開催にあたり、従来から協力していただいている赤川町会・北美原町会および放課後児童クラブのほか、中学生や高校生、大学生にもボランティアスタッフとして協力していただき、一緒に盛り上げてもらった。中学生および高校生の募集については、児童館だよりによりボランティアスタッフ募集の告知を行ったほか、近隣の中学校やボランティアクラブ等がある高校にスタッフ募集の周知を行った。大学生については、よさこいチーム学生連合「息吹」が児童館まつりでの演舞を行うこととしていたため、団体を通じて各大学へ依頼を行った。 児童館まつり当日は、各催し物ブースでの設置協力や運営のほか、来館者対応等を児童館職員とともに一緒に行った。一部、二部合わせて100人以上の来館があり、それを地域の方々（約10人）やよさこい演舞で来ていただいた公立はこだて未来大学の学生（約20人）、児童館だよりで募集をかけて自ら応募してくれた中学生3人、高校生5人が各ブース（かき氷やジュース、くじびきやストラックアウトなど7ブース）で協力し合い、来館者の対応を行った。			

8 赤川児童館母親クラブ主催「健康教室」の開催

		分類	新規
実施児童館	赤川児童館		
あり方の分類	(キ) 世代や団体の垣根を超えた積極的な児童館の活動参加の促進		
実施時期	11月8日	参加人数	10人
■背景/具体的な内容など 母親などの地域住民が参加する自主的な団体である母親クラブは、これまで、児童館まつりやもちつき会などの児童館行事の運営協力のほか、会員向けの研修会の開催などを行ってきた。今回、母親クラブ会員とともに学び、交流を深めるほか、児童館の認知度をさらに向上させることを目的に、母親クラブだけに対象者を限定せず、地域の方にも参加を呼びかけ、母親クラブ主催の「健康教室」を開催した。開催にあたっては、児童館だよりでの地域への案内のほか、町会への周知などを行った。 [実施内容] ・講師：ナースケアサロン「シャンティ」代表 佐々木久美 氏 ・健康生活に必要な食生活のあり方を学ぶとともに、健康に関わるアロマやセルフエステを実際に実施			

9 函館市子ども会議の児童館での開催

		分類	新規
実施児童館	鍛冶児童館		
あり方の分類	(ウ) 子どもの意見の尊重		
実施時期	9月28日	参加人数	13人
■背景/具体的な内容など 函館市子ども会議は、子どもたち自身が、子どもに関係する施策やまちづくりに関すること等について話し合い、意見を発表することで社会参加してもらうことを目的として毎年開催しているもので、令和6年度は初めて児童館で開催した。小学3年生以上の児童館利用者を対象に、児童館でのポスター掲示や小学校へのチラシ配付により、参加者の募集を行った結果、小学生と中学生併せて13人が参加してくれた。当日は、「鍛冶児童館でやってみたいことは」をテーマに、北海道教育大学函館校の本田准教授（ファシリテーター）の進行のもと、大学生がサポーターとして参画し、館内を巡ったり、ワークショップを行った。 [参加者] 小学3年生以上の児童館利用者：13人 ※小学校低学年：2人 小学校高学年：9人 中学生：2人 [当日の流れ] ① 開会 ② 自己紹介およびツアー（グループごとに児童館の好きな場所を案内・写真撮影） ③ グループでの意見交流 ④ 休憩 ⑤ グループごとに意見表明 [意見交流の方法] ・ワークショップ形式（1グループあたり4～5人程度） ・ファシリテーターが全体の司会進行 ・各グループに大学生サポーターを1～2人配置し、子どもの意見を引き出す役割を担った			

10 児童館まつりの企画・運営への子どもの参加

		分類	継続
実施児童館	山の手児童館		
あり方の分類	(ウ) 子どもの意見の尊重		
実施時期	10月4日～5日	参加人数	12人
■背景/具体的な内容など 日常、児童館を利用する子どもは、利用上のルールのもと、主体的・能動的に活動するとともに、他者とのコミュニケーションを通じて遊びを共有したり、新たな遊びを作りだしたりしていく。また、児童館行事は、児童館職員が子どもの実態を踏まえ、日ごろの子どもの声に耳を傾けながら、子どもが興味・関心をもちやすいものをとらえ、行事のねらいに即し、子どもが楽しめる内容を企画しているが、概して子どもが受動的になることは否めない。 児童館行事のなかで子どもが最も楽しみにしている行事が、年に一度の「児童館まつり」である。当館でも例年100人を超える参加があり、今年度は、ひもくじやスカットボール、射的などのゲームの実施のほか、フランクフルトやパンなどの提供を行った。当初、例年の取組を一步前に進めることをねらい、企画段階から子どもを参画させ、行事内容に子どもの意見をダイレクトに反映させることを考えたが、打合せの機会を設けることができず、行事前日の飾りつけと当日のゲームブースの運営補助をお願いすることとした。 飾りつけについては、子ども目線でのユニークなものがあったり、各ゲームブースの運営補助については、やさしく丁寧にルールなどを説明しながら、参加者と一緒になって喜んだりするなど、行事を盛り上げることに寄与した。 [参加人数] ・ 小学校高学年：8人 ・ 中学生：2人 ・ 高校生：2人			

11 乳幼児向け企画の実施

		分類	拡充
実施児童館	山の手児童館		
あり方の分類	(オ) 地域の子育て支援の場としての乳幼児および保護者等の居場所づくり		
実施時期	10月～	参加人数	2人
■背景/具体的な内容など 昨今の少子化や核家族化の進行により、子育てに係る悩みの相談や共有等の機会が十分整っているとは言い難い現状があり、児童館は、地域の子育て支援の場として、また、乳幼児および保護者の居場所として機能することが求められている。当館は、幼児室があることから、親子の触れ合いの場の提供や子育て支援に係る悩みの相談・共有、親子でのものづくりの機会の提供等に取り組んでいる。具体的には、日常的に来館する親子に対し、声掛けや遊びの共有を通じてコミュニケーションを図るとともに、親子で参加できる行事を企画・実施している。 令和6年度は、親子を対象とした「ものづくり」機会の提供を目的に企画を実施した。親子おもちゃづくり(10/21, 10/28)と親子工作教室(12/16, 12/17, 1/27, 1/28)については、企画したが参加者が集まらなかったが、ひなまつり工作(2/15)には親子1組の参加があり、他に参加していた小学生とともに、飾りひな作りを通して親子で楽しいひと時を過ごしていた。 [参加者] ・幼児：1人 ・保護者：1人 ※他に小学校低学年6人、小学校高学年4人も参加			

12 体験学習等の場の提供およびインターンシップ生の受け入れ

		分類	継続
実施児童館	山の手児童館		
あり方の分類	(カ) 民間団体等との連携による児童館の活用促進		
実施時期	6月～11月	参加人数	-
■背景/具体的な内容など 児童館は、子どもが遊びやスポーツ等を通じて体力増進や情操を豊かにすることなどを目的とした施設である。また、子どもに関わる職業に就くことを志望している高校生や大学生のインターンシップの機会を提供し、キャリア形成に寄与するとともに、学校の教育課程に基づいた体験学習等の場としても期待されている。そのため、小学生と高校生の体験学習等の場の提供、および、高校生と大学生のインターンシップの受け入れについて、以下のとおり実施した。 〔実施内容〕 ① 小学生と高校生の体験学習等の場の提供 ・6/12：発表「えいごde WAKU WORK」の取材として遺愛女子高校英語科2年生7人の受け入れ ・11/20：生活科地域見学として東山小学校2年生代表2人の受け入れ ② 高校生と大学生のインターンシップの受け入れ インターンシップの内容としては、児童館のあり方（令和6年8月策定）についてレクチャーを行った後、児童館行事（児童館まつり、ハロウィンお楽しみ会）の準備を子どもと一緒に取り組むとともに、遊びやゲームをともに行い、児童館職員の業務の一端を体験した。 ・9/20：函館市インターンシップ実習生として北海道教育大学函館校2年生1人の受け入れ ・10/17～19：インターンシップ（就業体験）として函館白百合学園高校2年生1人の受け入れ			

13 町会などと連携した行事の開催

		分類	拡充
実施児童館	桔梗児童館		
あり方の分類	(キ) 世代や団体の垣根を超えた積極的な児童館の活動参加の促進		
実施時期	9月28日/11月30日	参加人数	のべ329人
■背景/具体的な内容など 児童館まつりやもちつき会などの三世代交流行事は、コロナ禍以降中止あるいは縮小を余儀なくされ、町会や母親などの地域住民が参加する自主的な団体である母親クラブの協力を得る機会が減る状況が続いていた。しかし、児童館における活動も徐々に平常に戻りつつあることから、町会などとの連携を強化し、児童館行事の充実を図った。 [児童館まつり] 日 時：9月28日(土) 11時～13時 参加人数：幼児35人、小学生97人、中学生1人(ボランティア)、 一般67人(うち母親クラブ10人、桔梗町会10人) 計200人 行事内容：ゲームやくじ、飲食コーナーなど(飲食はコロナ明け初の実施) 町会等の協力：桔梗町会は主に飲食コーナーを、母親クラブは主にゲームを担当 [もちつき会] 日 時：11月30日(土) 10時30分～12時30分 参加人数：幼児19人、小学生49人、中学生2人(ボランティア)、 一般59人(うち母親クラブ14人、桔梗町会18人) 計129人 行事内容：杵と臼によるもちつき体験、あんこもち作り、作りたてのもちの試食(コロナ明け初の実施) 町会等の協力：桔梗町会はもちつき体験およびあんこもち作りを、母親クラブはもちの試食を担当			

14 町会と連携した行事の開催

		分類	拡充
実施児童館	日吉が丘児童館		
あり方の分類	(キ) 世代や団体の垣根を超えた積極的な児童館の活動参加の促進		
実施時期	7月23日/12月7日	参加人数	のべ180人
■背景/具体的な内容など これまで、児童館まつりやもちつき会は、母親などの地域住民が参加する自主的な団体である母親クラブを中心に準備や運営を行ってきたが、地域団体である町会との連携強化を視野に、当館が関係する3町会（日吉町会、日吉東部町会、南団地自治会）に対して行事開催への協力について依頼を行った。当日は、児童館まつりでは各縁日の担当、もちつき会ではあいどりとつき方の指導、つきたての餅を子どもたちに分けて丸める作業のお手伝い等に従事していただいた。 また、町会での七夕祭りの飾りづくりの際に、飾りづくりのアイディア等を町会の担当者の方に紹介したことをきっかけに、町会でクリスマスに実施しているリースづくりのアイディアを児童館の工作教室に活かすなど、町会と児童館との交流が続いている。 [児童館まつり] 日 時：7月23日（火）13時～ 内 容：子どもたちにミニ縁日（かき氷、くじ、射的、スーパーボールすくい等）を楽しんでもらう 参加人数：137人（幼児：13人、小学生：114人、保護者/一般：10人） ボランティア：町会15人、外国の方6人（函館市社会福祉協議会を通して参加） [もちつき会] 日 時：12月7日（土）13時～ 内 容：伝統的な正月行事である「もちつき」の体験とつきたての餅を丸めて持ち帰る 参加人数：43人（幼児：7人、小学生：33人、保護者/一般：3人） ボランティア：町会16人			

15 開館時間の1時間延長

		分類	拡充
実施児童館	神山児童館		
あり方の分類	(イ) 中学生および高校生世代の目線に立った居場所づくり		
実施時期	10月～3月	参加人数	のべ 330人
■背景/具体的な内容など 当館は平成27年度から指定管理児童館として学校法人 野又学園が施設の運営を行っており、自主事業の一環として、「中高生世代の豊かな学びと居場所づくり」を目的に、令和2年度に構想着手し、令和3年度より児童館の開館時間を延長する取組を行ってきた。利用者数は年々増加し、中高生の居場所として定着しつつあることから、令和6年度は取組をさらに充実させ、これまでは「10月から3月まで毎月第2および第4土曜日の月2回の限定」であったが、「10月から3月まで毎週土曜日」に範囲を拡大し、実施した。なお、開館時間延長時は中学生および高校生の利用のみとなるので、飲み物の持ち込みや携帯電話の利用を場所限定で許可した。 利用した生徒たちは、「楽しかった。また来週来るから。」と満足そうな顔をして帰宅している。土曜日の午後5時に神山児童館に行けば、思い切り遊べるという認識が中学生や高校生の中でできあがっている。 [延長時間] 10月～3月：17時まで → 18時まで ※毎週土曜日実施 [利用者数] ※のべ人数（令和6年度実績） 10月：53人 11月：50人 12月：62人 1月：41人 2月：59人 3月：65人 [具体的な施設の利用内容] ・遊戯室：バスケットボール、バレーボール、プラスチックボールを使った野球 ・集会室：スマホでゲーム、トランプ、UNO、将棋、ゲーム類、おしゃべり ・図書室：読書、勉強			

16 海上保安庁函館航空基地と連携した企画の実施

		分類	継続
実施児童館	上湯川児童館		
あり方の分類	(キ) 世代や団体の垣根を超えた積極的な児童館の活動参加の促進		
実施時期	11月2日	参加人数	37人
■背景/具体的な内容など モデル事業の具体的な実施にあたり、地域との連携に焦点をあて、令和5年度に湯浜児童館において行った事業について、海上保安庁函館航空基地と調整し、令和6年度は当館において連携した企画を実施することとした。海上保安庁としては函館市民や子どもたちに海上保安庁が身近な存在となることを、児童館としては新たな企画の実施による児童館への来館意欲の向上を目的に開催した。 [実施内容] 事業名：上湯川児童館に海上保安庁がやってくるよ！ 参加人数：幼児3人 小学生15人 中学生2人 保護者/一般17人 内 容：海や航空基地（ヘリコプター）の仕事のお話、紙飛行機を折って飛ばそう、ラジコンヘリコプターの操縦、救助シミュレーションゲーム 様 子：参加した子どもたちが興味を持つ内容を提供していただいた。 ヘリコプター操縦士としての身のこなし方なども体験できた児童もいた。			

17 三世代交流ゲーム会の開催

		分類	新規
実施児童館	上湯川児童館		
あり方の分類	(キ) 世代や団体の垣根を超えた積極的な児童館の活動参加の促進		
実施時期	9月28日	参加人数	23人
■背景/具体的な内容など 当館は、開館当初は子育て世代の家庭が多く住んでいた団地の一角にあるが、時代とともに、この地域に根付いて子育てをする若者世帯が減少し、高齢者の割合が多い状況となっている。しかし、町会関係者や母親など地域住民が参加する自主的な団体である母親クラブの会員の方々は、日頃から児童館行事への協力や地域の子どもたちに気持ちを寄せてくださっていることから、世代を越えて一緒にゲームをしたり、お菓子を食べながら楽しい時間を共有できる場として「三世代交流ゲーム会」を企画し、開催した。 [実施内容] 参加人数：小学生 8 人 中学生 2 人 保護者/一般13人 内 容：ゲーム会…ラダーゲッター、スカットボール、ボッチャの 3 ゲームを 3 チームに分け、ローテーションしながら全員が実施。 各自得点表を記入し順位を競う。 茶菓親睦…ジュースやお茶、お菓子を食べながら歓談。ゲーム会の順位 結果発表、賞品授与。 様 子：会のはじめは静かで、参加者がお互い距離を置いていたが、時間が経つにつれ世代を越えて、歓声や応援の声が館内に響いていた。 また、言われずとも子どもたちが自主的に玉拾いやジャッジをしたり、高齢者の方に得点を教えてあげる等の微笑ましい光景も見られ、茶菓、ゲーム会結果発表（1 人ずつ賞品授与）でも和やかに会話が弾んでいた。			

		分類	拡充
実施児童館	深堀児童館		
あり方の分類	(エ) 福祉的課題への適切な対処		
実施時期	通年	参加人数	-
■背景/具体的な内容など 児童館に来館する子どもには、それぞれの個性や置かれている環境がある。そのなかで、児童館に来館し、多様な年齢の子どもや幼児、大人との交流を通して、各種活動に取り組んでいる。各種関係機関との連携を基にした情報を生かし、子どもたち一人一人の個性を生かした対応や指導などをより適切に行うほか、児童館内の環境づくりに努める必要がある。より広く関係機関との連携を深め、「地域で子どもを育てる」ための大切な一機関となれるように努めなければならないことから、以下の取組を行った。 [実施内容] ○ 近隣学校や保育所等への参観および幼児や児童、生徒についての情報交換 ① 深堀小学校・深堀中学校・駒場小学校における「コミュニティ・スクール」への参加 ・各学校の取組について理解する。 ・各学校の授業参観を通して、児童の様子を把握する。 ・必要に応じて、児童館での様子を学校にも連絡し、児童の指導について連携を図る。 ② 深堀保育所との連携の推進 ・保育所行事に参加する。			

19 中学生の利用促進に向けた取組

		分類	新規
実施児童館	湯浜児童館		
あり方の分類	(イ) 中学生および高校生世代の目線に立った居場所づくり		
実施時期	通年	参加人数	-
■背景/具体的な内容など 当館の利用者の大半は小学生であり、令和5年度は特に6年生の利用が多かったことから、中学校入学後の引き続きの利用につなげるため、6年生に対して中学生になっても利用できる旨の声かけを行っていた。しかし、中学校入学後には、部活動等の理由により児童館の利用頻度は少ない状況が続いていた。そのため、小学生時代に利用していた子どもたちが、中学生になっても継続的に利用してもらうための取組として以下を実施した。 [具体的な内容] (1) 中学生をリーダーとした小学生といっしょに遊べる環境づくり (通年) 中学生に参加の声かけを行い、中学生と小学生合同のドッジボールを行った。3か月に1回程度の頻度で合計3回開催し、平均参加人数は中学生が4人、小学生が8人であった。 (2) 自学自習しやすい雰囲気づくりとその提供 (通年) 自学自習での利用も可能であることを伝え、既存設備を有効活用し、自学自習を行っていた。利用人数はのべ15人であった。 (3) 中学生の興味・関心を生かした行事内容の工夫と出演依頼 ・イラスト教室の開催 (6月22日 (土)) - 小学生以上が参加対象の講師を呼んだ行事で、湯川中学校美術部への呼びかけを行い6人が参加 ※参加人数: 21人 (小学生14人, 中学生6人, 高校生1人) ・クリスマス会の演奏依頼 (12月21日 (土)) - 旭岡中学校リコーダー部に対して演奏を依頼し12人が出演 (4) 地域連携協働本部を経由して深堀中学校の生徒への情報発信の強化 地域連携協働本部を通じて児童館まつり (10月5日 (土)) のボランティアのお手伝いを募集した。当日は、4人がボランティアとして参加し、各ゲームコーナーでの受付や説明係に明るく手際よく従事してもらった。			

		分類	継続
実施児童館	湯川児童館		
あり方の分類	(キ) 世代や団体の垣根を超えた積極的な児童館の活動参加の促進		
実施時期	12月	参加人数	97人
■背景/具体的な内容など これまで当館の行事は、児童館職員や母親などの地域住民が参加する自主的な団体である母親クラブが中心となりながら開催してきた。しかし、母親クラブ参加者の平均年齢も上昇し、行事への協力も以前より人数が減ってきていたことから、今後の継続的な行事開催を見据え、児童館だよりや以前遊びに来ていた中学生のお母さん（母親クラブ会員）を通して、ボランティアを募り、もちつき会を開催した。 参加した子どもたちは、臼と杵でつきあがったお餅を、母親クラブや中学生のボランティアに手伝ってもらい、のし餅にして持ち帰ってもらった。子ども2人につき切り方を指導する大人が1人つくことができたので、みんな上手にのし餅を作ることができた。 [参加人数] ・ 幼児：18人 ・ 小学校低学年：38人 ・ 小学校高学年：7人 ・ 中学生：2人（ボランティア） ・ 保護者/一般：20人 ・ 母親クラブ/地域ボランティア：12人			

		分類	新規
実施児童館	旭岡児童館		
あり方の分類	(ウ) 子どもの意見の尊重		
実施時期	1月～2月	参加人数	9人
■背景/具体的な内容など 18歳未満すべての子どもの居場所となることをめざし、児童館を利用する子どもの声を聴き、尊重し、自由な発想や意見を表明する環境づくりの一環として、小学6年生に声をかけを行い「こども会議」を立ち上げた。1月以降、こども会議を合計4回開催し、2月に開催するお楽しみ会の企画内容の検討、材料の調達やポップ制作などの準備のほか、当日の運営を行った。 [実施内容] ・こども会議の開催結果 - 第1回：リーダー等の選出、スイーツ決定、食材・値段のリサーチ - 第2回：食材・値段のリサーチ - 第3回：食材買い出し - 第4回：当日使用ポップづくり、打合せ ・旭岡小学校6年生9人が参加した。 ・2月28日（金）に「スイーツづくりお楽しみ会」を開催した。 当日は、アイスや市販のお菓子を用意し、参加者がビュッフェスタイルでパフェをつくり、会食して楽しんだ。 [当日参加人数] ・幼児：3人 ・小学校低学年：9人 ・小学校高学年：16人（うち実行委員9人） ・保護者：2人			

22 「どっちにする？箱」の設置

		分類	新規
実施児童館	宮前児童館		
あり方の分類	(ウ) 子どもの意見の尊重		
実施時期	10月～11月	参加人数	16人
■背景/具体的な内容など 当館の遊戯室の遊びでは、天下（ドッチボールに似た遊び）が一番人気である。そのため毎月一回天下大会を開催しているが、子どもたちに改めて天下大会の試合時間について確認したところ、子どもたちの認識に差があることが判明した。そのため、子どもたちの声を聴き、天下大会のルールを決めるため、「どっちにする？箱」を設置した。以前、子どもたちの意見を聴いた行事の開催をめざしたことがあるが、なかなか上手く意見を把握することができなかったことから、多数の意見を記載してもらうのではなく、選択形式とすることとした。 館内にどっちにする？箱を設置し、事前に行った子どもたちへの確認時に多かった「5分」と「10分」のいずれかに投票してもらう形とした。投票の結果「10分」の方が多かったことから、投票結果を踏まえ、11月の天下大会から試合時間を10分で行うこととした。 [実施内容] ・ 設置期間：10月28日～11月9日 ※13日間 ・ 内 容：「5分」と「10分」のいずれかに投票 ・ 結 果：5分…7票 10分…9票 ※全学年から回答あり			

23 大学生との連携によるプログラミング教室の開催

		分類	新規
実施児童館	宮前児童館		
あり方の分類	(キ) 世代や団体の垣根を超えた積極的な児童館の活動参加の促進		
実施時期	1 月 8 日	参加人数	8 人
■背景/具体的な内容など 当館は、北海道教育大学函館校の近くに位置していることから、地域と連携した取組として、大学生と連携した企画の実施を検討し、面識のある先生の講義の時間に学生へ直接、当館の活動や行事の説明を行った。そのなかで、子どもたちとの交流を希望する声が学生側から挙がったことから、学生と企画内容を検討し、子どもたちが日頃から使用しているパソコンを使い、ゲーム感覚で遊びながら楽しくプログラミングを学ぶ企画を実施することとした。 当日は、大学生 3 人が講師となり、大学生が用意したパソコンのほか、児童館に設置しているパソコンを使用し、大学生の人数も踏まえ、1 日 2 回にわけて開催した。プログラミングの経験がなかった子どもも経験したことがある子どもも、それぞれのレベルに合わせて挑戦していたほか、高学年の児童が低学年を励ましながらか一緒に取り組む姿もみられた。 [実施内容] ・参加人数：小学校低学年 5 人 小学校高学年 3 人 ・内 容：プログラミングの基礎について説明を受けたあと、 scratch（プログラミング言語）を使用し、キャラクターを動かしたりした。			

		分類	新規
実施児童館	大川児童館		
あり方の分類	(ア) 心身の健康増進および知的・社会的能力の向上		
実施時期	9月～12月	参加人数	のべ15人
■背景/具体的な内容など 当館では、令和4年度より、子どもたちの自主的な学習の場を提供する「まなびウィークデイin児童館」を毎週月曜日に開催している。その影響もあり、まなびウィークデイ以外の曜日でも学習してから遊ぶ子の姿も見られ、児童館で学習する流れが少し定着している状況にあった。そのため、教育支援人材バンクに登録している講師の方と連携し、英語に焦点をあてた企画を月一回開催した。小学校低学年の子どもの参加が多く、企画を楽しんでいる様子や英語への興味・関心が高まっていく様子が見られ、遊びのなかでも学んだ英単語が出ていた。 [実施内容] ・ 9月～12月の毎月一回、第3水曜日に毎回30分程度で開催（合計4回開催） ・ 食べ物などの身近なものの正しい英語の発音について指導 [参加人数] ※のべ人数 9月：5人 10月：4人 11月：3人 12月：3人			

		分類	継続
実施児童館	五稜児童館		
あり方の分類	(キ) 世代や団体の垣根を超えた積極的な児童館の活動参加の促進		
実施時期	10月5日	参加人数	45人
■背景/具体的な内容など 日頃から児童館を利用する子どもたちに、日常の遊びとは違ったゲームや縁日の模擬店のような雰囲気を楽しんでもらうとともに児童館への親しみを深めてもらう目的で、令和3年より児童館まつりを開催している。令和6年度は「ミニ縁日」と形を変え、年2回、夏と秋に開催することとした。 開催にあたっては、母親などの地域住民が参加する自主的な団体である母親クラブと連携して実施することにより、児童館職員と母親クラブのメンバー相互間の交流や親睦を図っているが、秋の開催にあたっては、近隣町会の児童館運営委員にもお手伝いを要請し、ボランティアスタッフとして参加してもらった。当日は、会場設営から終了後の後片付けまで田家町会より2人の方に参加いただき、行事開催中は「まとあて」と「ストローとんぼづくり」を担当し、子どもたちに遊びのコツを伝授していただいた。子どもとの触れ合いや、同じコーナーを担当した母親クラブの方々との交流もあり、楽しく参加していた。 [行事内容] ・遊びのコーナー（遊戯室）：①ターゲットゲーム ②まとあて ・くじ引きコーナー（廊下）：①ひもくじ ②おもちゃくじ ・作って遊ぼう！コーナー（前庭）：ストローとんぼづくりに挑戦しよう！			

		分類	新規
実施児童館	富岡児童館		
あり方の分類	(ア) 心身の健康増進および知的・社会的能力の向上		
実施時期	9月/10月	参加人数	のべ141人
■背景/具体的な内容など 児童館ガイドラインにおいて、「乳幼児と中・高校生世代等との触れ合い体験の取組」が記載されているほか、少子化が進んだ現在、乳幼児と関わる機会がほとんどなく親になり、子育てへの不安や育児放棄に陥るケースも耳にする。中学生や高校生世代から乳幼児に関わるにより、愛着を感じたり、自ら生み育てたい気持ちを抱いたりする機会は大変有意義であると考え、当館で行っている子育て支援事業を活かし、函館商業高校の協力により、乳幼児と高校生の触れ合いの場を企画し、実施した。 (1) 「児童館まつり」(9月14日) 高校生はボランティアの立場で参加してもらい、参加者との触れ合いを楽しみながら、人の役に立つ体験や以後の児童館活動や乳幼児との触れ合いにつなげることを目標に実施した。当日は、制作コーナーやゲームコーナーを担当してもらった。 参加者：幼児13人 小学生61人 中学生1人 高校生3人 保護者/一般56人 (2) 「遊びの広場&子育て相談 ～幼児と高校生との触れ合い～」(10月19日) 高校生が乳幼児と触れ合い、「かわいさ」や「触れ合う楽しさ」を感じることを目標に実施した。当日は、開始時間までの間に、乳幼児が喜んでくれることを思い描きながら、ハロウィンのガーランドとガチャガチャを見事に制作した。遊びの広場では、手あそびを共に行い、変わり絵も子どもの気持ちを引きつけながら行っていた。体を使った遊びの場面では、幼児を楽しませようという意識をもって、積極的に関わっていた。 参加者：幼児3人 保護者2人 高校生2人			

27 開館時間の延長（高校生タイムの実施）

		分類	新規
実施児童館	昭和児童館		
あり方の分類	（イ）中学生および高校生世代の目線に立った居場所づくり		
実施時期	通年	参加人数	のべ68人
■背景/具体的な内容など 当館は、令和2年度より「幅広い年齢層に対応し、遊びだけでなく豊かな学びを提供する児童館」として5年計画で新たな取組を始めた。令和2年度～3年度は調査・研究、令和4年度～5年度は試行・評価を行ってきた。令和6年度は検証・改善とし、特に高校生世代を対象としてさまざまな方策を考え、利用促進に向けた取組として高校生の要望を取り入れ、開館時間を延長する高校生タイムの実施を試みた。 主な利用は、遊戯室でのバレーボール、バドミントン、バスケットボールであり、利用者の多くは1年生である。 〔実施内容〕 ・毎月土曜日1回 ・4月～9月：18時まで → 19時まで 10月～3月：17時まで → 19時まで 〔利用人数〕 ※のべ人数（令和6年度実績） 函館商業高校：47人 函館水産高校：10人 函館ラ・サール高校：9人 函館中部高校：2人			

		分類	継続
実施児童館	古川母と子の家		
あり方の分類	(キ) 世代や団体の垣根を超えた積極的な児童館の活動参加の促進		
実施時期	夏・冬・春休み	参加人数	のべ75人
■背景/具体的な内容など 当館が立地する銭亀沢地区では、卓球が地域に根付いたスポーツとなっており、日常的に、遊戯室では多くの子どもが卓球で遊んでいる。そのため、長期休業期間中に、教員時代に卓球の指導経験がある三休指導員の指導のもと小学生および中学生向けに、卓球の基礎や試合の上手な進め方等についての卓球教室を開催した。 開催期間中は、卓球教室を目当てに来館する子が多いが、通常利用の子どもたちのなかにも、卓球の音や歓声につられ、興味を持ち「やってみたい」という小学生も見受けられる。中学生がそういう小学生に対して優しく指導することもあり、異年齢間の交流の場となることもあった。また、卓球初心者のために「卓球うまくなる記録会」を設け、ラケットでボールをトントンする回数や壁打ちの回数などを競争しながら基礎作りをするなど、卓球が楽しくなる取組も行っている。 [開催期間] ※長期休業期間中は毎日開催 ・夏休み (7月24日～8月22日 14時～16時) ・冬休み (12月26日～1月14日 13時30分～15時30分) ・春休み (3月25日～4月6日) [利用者数] ※のべ人数 ・夏休み：小学生33人 中学生16人 高校生1人 (合計50人) ・冬休み：小学生7人 中学生6人 高校生0人 (合計13人) ・春休み：小学生5人 中学生5人 高校生2人 (合計12人)			

(問い合わせ先)
函館市子ども未来部子ども健やか育成課

〒040-0001 函館市五稜郭町 23 番 1 号
TEL:0138-32-1517
FAX:0138-32-1506